

# 六 満州國をめぐる諸問題

## 1 一般問題

698 昭和10年3月6日 広田外務大臣より  
在満州國南大使宛

滿州國石油輸入関税率区分方法に關し英米両  
国が前年十二月の改正を不服として更なる改  
正を満州國へ斡旋方要請について

通一機密第一九一號

昭和十年三月六日

外務大臣 廣田 弘毅

在 滿

特命全權大使 南 次郎殿

滿洲國稅關ノ石油類分類規格二關スル件

二月十九日在京英國大使館「サンソム」參事官及同米國大使館「ネビル」參事官前後シテ來栖通商局長ヲ來訪シ在奉天英米總領事ヨリノ報告ニ依レハ滿洲國ニ於テ昨年十二月

實施セル輕油燈油ノ分類法改正ハ其後ノ實績ニ徴スルニ未タ徹底的ノモノトハ認メ難ク最近ハ從來ヨリ更ニ多量ノ日本輕油輸入セラレ居ル趣ナルニ付テハ滿洲國ヲシテ更ニ徹底的ナル改正ヲ行ハシムル様日本政府ニ於テ斡旋アリ度旨非公式ニ依頼申出ノ次第アリタル由ナリ

右何等御参考迄不取敢申進入

本信寫送付先 奉天 哈爾賓

699 昭和10年3月19日 広田外務大臣より  
在満州國南大使宛

滿州國による帰化朝鮮人および無就籍朝鮮人

の取扱いに關する我が方基本方針について

亞二機密第二三九號

昭和十年三月十九日

外務大臣 廣田 弘毅

在 滿

外務大臣 廣田 弘毅

在 滿

特命全權大使 南 次郎殿

歸化朝鮮人及無就籍鮮人ノ取扱方ニ關スル件

本件ニ關シ客年十一月十三日附貴信公機密第二〇四四號御請訓ノ趣了承本件ハ性質上朝鮮總督府側ノ意向ヲモ參考トシテ承知シ置クノ要アル爲不取敢本省係官ヨリ同府外事課長宛電照シ置キタルニ對シ別紙〔公報〕寫ノ通二月七日附ニテ實質的ニハ本件處理内容ニハ反對ニハ非サル旨回答アリタル處其ノ間本件ハ端ナクモ一月廿九日鮮字紙朝鮮日報次テ二月十六日滿洲日報等ニ喧傳セラレ又在奉天全滿朝鮮人聯合民會ニ於テハ反對意見書ヲ各地朝鮮人民會方面ニ發送シタル等ノコトアル爲今日トナリテハ居留民指導上手遲レトナリ滿洲國側ノ希望ヲ其ノ儘承認スルコト困難トナリタル感アリ仍テ當方トシテハ朝鮮人ノ歸化力元々土地獲得ヲ目的トシタル實狀ニモ鑑ミ此際ハ滿洲國カ希望スル管理權行使ノ對象ヲ「土地所有權ヲ有スル帝國臣民」ニ限リ詮議シ度意

向ナルニ付右ノ程度ニテ先方ト御協議ノ上結果回報相成度即チ右ニ依レハ形式的ニハ內鮮人ノ區別ヲ附セサルコトトナリテ鮮人差別待遇云々ノ問題ヲ避ケ得ヘク又問島協約ニ依ルモノハ別トシ所謂歸化鮮人以外ハ建前上土地所有權ヲ

則ニ合スルモノナルヘク又曩ニ寧古塔ニ於ケル納稅問題取扱ノ例(本年二月十一日附哈爾賓發責大使宛公領機密第二〇二號公信)モアリ一般内鮮人ノ課稅問題ニ對スル認識ヲ誤ラシメサルト共ニ各地ニ於ケル滿洲國側ノ公共的施設改善等ニ對シテハ我居留民側トシテモ應分ノ寄與ヲ吝マサラシムル様仕向クルコト滿洲國ノ健全ナル發達ヲ促ス所以ナルニ付テハ出先各領事ニ於テモ日常居留民ニ直接々觸スル警察官ニ對シ貴大使館ノ課稅ニ關スル方針中差支ナキ部分ヲ普ク徹底セシメ置キ以テ居留民指導ニ當り遺憾ナカラシムル等本件ノ實際的取扱振ニ付テハ幾多考究ノ餘地アルモノト認メラルニ付各領事ニ對シ貴大使ニ於テ此ノ上共其ノ邊可然御指導相成様致度乍序申添ユ

700 昭和10年3月29日 広田外務大臣より  
在溝州國南大使宛

溝州國銀行法の在溝本邦銀行への適用振りに

関し溝州國側指導方訓令

通ニ機密第二八五號

昭和拾年參月廿九日

尙本問題等ニ付溝州國ニ對スル邦人企業者ノ反感ヲ唆ルコトハナルニ於テハ治外法權撤廢問題ノ前途ニモ面白カラサル影響ヲ與フルノ懸念アル次第ヲ可然溝州國側ニ御傳達相成度シ

701 昭和10年4月6日 広田外務大臣より  
在溝州國南大使宛

溝州國治外法權撤廢を視野において在溝領事  
館警察官の調整に関する省議決定について

付記

五月二十日付在溝州國谷(正之)大使館參事官

より桑島東亞局長宛半公信

亞ニ機密第三二〇號

昭和十年四月六日

外務大臣 廣田 弘毅

在溝

特命全權大使 南 次郎殿

治外法權撤廢ニ應スル在溝領事館警察官調整方

本件ニ關シ別紙要旨故實行要領ノ通省議決定ヲ見タルカ右

ノ内實行要領ニ付テハ更ニ慎重攻究ヲ要スヘク殊ニ現地ノ實狀等ヨリ見テ或ハ多少ノ變更ヲ見ル點モ有之哉ニ存セラルモ一應別紙ニ依リ關東軍トモ連絡ノ上溝州國側ニ對シ右要旨及實行要領適宜御開示相成リ之力實施ニ必要ナル同

在外大臣 廣田 弘毅  
在溝州國特命全權大使 南 次郎殿  
在溝邦人銀行ニ對スル溝州國銀行法適用ニ關スル件

大藏省銀行局係官ヨリノ内報ニ據レバ先般上京中ナリシ溝州國財政部星野總務司長ハ同係官ヲ訪問シ在溝朝鮮銀行支店ニ對シ溝州國銀行法ニ規定セラル、雛型ト同一形式ノ業務報告書ニ相當スル書類ヲ提出セシムルコトニハ協力セシメ差支ナキモ右書類ラシテ銀行法記載ノ雛型ト同一形式タラシムヘシトノ要求ハ之ヲ承服スルヲ得ス又此種事項ハ關係官廳タルガ本件ニ付テハ在溝本邦銀行ニ對スル溝州國銀行法適用問題ニ關スル客年五月下旬往電ノ趣旨ニ依リ可然溝州國側ヲ御指導相成度

尙本問題等ニ付溝州國ニ對スル邦人企業者ノ反感ヲ唆ルコトハナルニ於テハ治外法權撤廢問題ノ前途ニモ面白カラサル影響ヲ與フルノ懸念アル次第ヲ可然溝州國側ニ御傳達相成度シ

意ヲ取付クルト共ニ具體準備ヲ爲サシメラレ度特ニ康德一年度移讓警察官百五十名ニ對スル溝州國側ノ豫算編成方ニ付テハ可成早目ニ先方ヲシテ決定セシメラレ度又貴館ニ於テモ右ニ呼應シテ諸般ノ内準備ヲ進メラレ度尙關係領事ニハ御見込ニ依リ適當ニ御示達アリ度

追テ本件ハ居留民及警察官ハ固ヨリ一般ニ於テモ誤解ヲ生シ易キ事項ヲ多分ニ含ミ居ルニ付彼我ノ交渉並審議等ハ適當ノ時期迄内密ニ進メラレ外部ニ對スル一切ノ發表ハ總テ之ヲ貴館ニ於テ統制セラルル要アルヘク爲念申添エ

尙別紙各三部添付ス

(別紙)

治外法權撤廢ニ應スル在溝領事館警察調整方

二關スル件

○要旨

治外法權撤廢完了スヘキ時期ニ至リ初メテ在溝領事館警察ヲ一舉ニ溝州國ニ委讓スルコトハ事務處理上ヨリ見レハ最モ簡決<sup>(後カ)</sup>ナルヘキモ右ハ法權撤廢ヲ圓滑ニ實施スル所以ニア

ラス又滿洲國ノ健全ナル發達ヲ促カス效果的方法ニモ非サ

ルヲ以テ左記(イ)、(ロ)ノ如ク漸進主義ニ依リ在滿領事館警察ノ調整ヲ計ルコト必要ト認メラレ又法權撤廢後ニ

於ケル館務遂行ノ必要上左記(ハ)ノ如ク警察官ノ一部ヲ逐次

領事館員ニ轉セシメ以テ領事館ノ充實ヲ計ルコト肝要ト認メラルニ付右方針ニテ準備ヲ進メ實行ニ移スコトト致度

(イ) 在滿領事館警察官ハ治外法權撤廢ニ先チ日系警備職員トシテ逐次之ヲ滿洲國ニ委讓シ殘余ノ希望者全部ハ治外法

權撤廢了スヘキ際ニ於テ同様滿洲國ニ委讓スルコト。此等警察官ニ付テハ滿洲國ヲシテ巡官(警部補)以上ノ待遇ヲ爲サシムルコト

(ロ) 前項(イ)ニ關聯シ滿洲國日系警察官相當充實シ同國警察法規整備スルニ至ラハ居留邦人ニ對シ或程度ニ滿洲國警察法規ノ適用ヲ認メ領事館警察官ヲシテ之力施行ニ當ラシ

ムルノ外日系警察官ニモ右權限ヲ與フル途ヲ開クコト

(ハ) 現ニ警察官カ一般領事館務ヲ補助シツツアル事實ニ鑑ミ優秀ナル警察官ヲ館員ニ採用シ領事館員ノ充實ヲ計ルト

共ニ必要ニ應シ分署ヲ領事館、分館又ハ出張所ニ改ムルコトトシ(イ)ニ依リ生スル警察經費ノ余裕ヲ之ニ振向クル

様豫算ノ調整ヲ行フコト

(二) 以上三項ハ附屬地外兼任警察官ニシテ外務省專任ニ引直サレタルモノニ付テモ同様ニ取扱フコト

右方針ニ依ル實行振ニ付テハ關係局課ニ於テ慎重研究ヲ要スルモ差當り別項實行要領案ニ依ルモノトス

(付記)

機密

拜啓時下益々御清祥奉賀候

陳者亞二機密第三一〇號(治外法權撤廢ニ應スル在滿領事館警察官ノ調整方ニ關スル件)大臣御訓令ニ付キ當地ニ於テ研究致候處左記ノ通リニ御座候條御查閱ノ上何分ノ御高配賜り度此段御依頼旁申進候

敬具 昭和十年五月二十日

在滿大使館

外務省 谷參事官

桑島東亞局長殿

左記

一、在滿領事館警察調整ノ件ハ係官ニ於テ慎重考究中ニシテ訓令ノ次第モアリ今年度内相當數警察官ヲ滿洲國ニ委讓

方ニ付テモ一應實行案ヲ考究シタル次第ナル處本官歸任以來現地ノ情勢ヲ見ルニ豫テ縣案中ノ兼任警察官ノ經費委任經理ノ問題ハ屢次電報ノ通ノ經緯ニテ殊ニ長岡總長

ノ滿洲國入ト共ニ交渉ノ相手方ヲ失ヒ解決愈々困難ヲ加ヘツツアリ而シテ關東局ハ當方及關係領事ヨリノ要求ニ拘ラス附屬地警備力ノ手薄ヲ理由ニ東邊道及熱河方面ヘノ警官増派ニ難色ヲ示シナカラ(兼任警察官ニ委讓問題拾頭以來殊ニ其ノ傾向顯著トナレル様思考セラル)一方ニ

於テハ着着缺員ヲ補充シテ之ヲ附屬地強化ニ用ヰツツアリ加之兼任警察官ノ一部ヲ外務省ニ委讓スル場合ニ於テモ之ニ依リテ生スヘキ豫算ノ餘裕ハ擧ヶテ附屬地警察ノ充實ニ用フヘク外務省ニ割讓スルノ意圖無キコトヲ關東

局責任者ニ於テ屢次言明シ居ル始末ニシテ滿洲國ニ於ケル警察機構ノ單一化合理化及治外法權(警察官)撤廢問題ニ關スル彼我ノ思想ニ著シキ懸隔アルヲ見ル更ニ滿洲國内ノ實狀ヲ觀察スルニ治安狀況ハ一時的トハ言ヘ逆轉ノ

氣味アリ匪賊殊ニ共匪ハ稍狂暴ヲ加ヘ來レル一方治安問題ニ關スル彼我ノ思想ニ著シキ懸隔アルヲ見ル更ニ滿洲國委讓ニ進ムコト萬全トモ思惟シ居ル次第ナリ

三、尙關東局側ノ附屬地中心主義ハ根底深ク依然トシテ何等改善ノ跡認メラレサルノミナラス此儘ニ押進ムトキハ満洲國委讓ニ進ムコト萬全トモ思惟シ居ル次第ナリ

洲國警察モ外務省警察モ愈々動キ力取レヌ事態ト成リ行  
ク憂アル處其ノ原因ノ一ハ特別會計制度ニ在リト觀測セ  
ラル同會計ノ歲入ハ附屬地以外ニ於ケル日滿各機關ノ努  
力ニ依ル滿洲國ノ發達ニ伴ヒ逐次増加サレツツアルモノ  
ナルニ不拘之カ使用ハ關東局ノ壟斷スル所ト爲リ居レリ  
此不合理ハ年ト共ニ顯著トナリツツアルニ依リ國家財政  
的見地ヨリシテ速ニ之ヲ調整セサルヘカラス本件ハ實ハ  
今春機構改革ノ際當然行ハルルヲ要シタル次第シテ其  
ノ之ナカリシ結果該改革ノ精神ハ官制ノ文面ニノミ止リ  
其ノ根底ヲ爲スヘキ豫算面ニハ何等ノ變化ヲ及ホサリ  
シモノナリ此結果關東局ハ特別會計ノ豐富ナル財源ヲ持  
チ其ノ歲入ヲ附屬地及關東州ノ強化ニ使用シ居レリ此事  
態ノ續ク限り警察豫算ノ移管ハ素ヨリ附屬地課稅ノ問題  
ノ解決ノ如キモ覺束ナク延イテ滿洲國警察權ノ確立其ノ  
財政ノ強化モ望マレス無意識ノ衷ニ滿洲國ノ健全ナル發  
達ヲ阻害シツツアリト思ハル旁々我國家財政的見地ヨリ  
スルモ對滿政策ヨリスルモ此際速ニ關東局特別會計ヲ廢  
止スル様中央ニ於テ御詮議ヲ望ム

(以上)

其ノ根底ヲ爲スヘキ豫算面ニハ何等ノ變化ヲ及ホサリ  
シモノナリ此結果關東局ハ特別會計ノ豐富ナル財源ヲ持  
チ其ノ歲入ヲ附屬地及關東州ノ強化ニ使用シ居レリ此事  
態ノ續ク限り警察豫算ノ移管ハ素ヨリ附屬地課稅ノ問題  
ノ解決ノ如キモ覺束ナク延イテ滿洲國警察權ノ確立其ノ  
財政ノ強化モ望マレス無意識ノ衷ニ滿洲國ノ健全ナル發  
達ヲ阻害シツツアリト思ハル旁々我國家財政的見地ヨリ  
スルモ對滿政策ヨリスルモ此際速ニ關東局特別會計ヲ廢  
止スル様中央ニ於テ御詮議ヲ望ム

來日した滿州國皇帝の宮中參内等動靜について

付記一 外務省作成 作成日不明

満州國皇帝訪日日程

二 三月二十七日付湯沢(三千男)兵庫県知事より

廣田外務大臣他宛公信外秘第八九四号

滿州國皇帝訪日に際しての在本邦中國公使の  
動靜報告

本省 4月9日後0時発

## 第二四八號

## 往電第二四〇號ニ關シ

皇帝陛下ニハ六日午後正式齒簿秩父宮殿下御同乘ニテ宮中  
御參入兩陛下ト正式御對面アリ皇帝陛下ヨリ建國以來日本  
帝國力絶大ナル援助ヲ與ヘタルコト及客年秋御名代トシテ  
秩父宮殿下ヲ御差遣アラセラレタルコトニ對シ懇篤ナル謝  
辭ヲ述ヘラレ兩陛下ヨリハ遠路御來訪ノ勞ヲ犒ハセ給フ御  
言葉アリ次イテ皇帝陛下ヨリ兩陛下へ勳章御贈進ノ儀アリ  
滯リナク御儀ヲ終ラセラレタル趣ナリ

(付記一)  
二日(火) 夕刻大連御乗艦  
六日(土) 朝横濱御入港  
臨時列車ニテ御入京  
赤坂離宮ヘ

702 昭和10年4月9日 在滿州國南大使宛(電報)

820

午後三時三十分天皇陛下ニハ御答訪ノ爲赤坂離宮ニ行幸ア  
ラセラレ大勳位菊花章頸飾ヲ御贈進アラセラレタル處皇帝  
陛下ニハ深ク御喜ヒノ御模様ニテ鄭重ナル御禮ヲ申述ヘラ  
レ次イテ皇帝陛下ニハ御招キニ依リ參入シタル三格姫及  
傳佳(御從弟)氏ト御對面久潤ヲ敍サレ御歡談時餘ニ及ハセ  
ラレタル趣ナリ

同夜宮中ニ於ケル正式晚餐ニ於テハ御食事中ハ素ヨリ御食  
事後モ終始御談話ノ絶工間ナク宮内省樂部員ノ舞樂ハ一人  
御感興深ク御覽アラセラレタルヤニ承ル

同日ハ夕刻ニ至リ微雨瀟々トシテ至リタルモ御入京及御參  
入ノ際ハ好天氣ニテ沿道奉拜者ノ感激其ノ極ニ達シ市中一  
般亦奉迎氣分溢滿ス

天皇陛下赤坂離宮行幸御答訪  
夜宮中晚餐、舞樂  
七日(日) 朝大宮御所御訪問  
明治神宮及靖國神社御參拜  
聖德記念繪畫館  
夜赤坂離宮晚餐(皇族御招待)  
朝引見式(赤坂離宮)  
滿洲國公使館奉迎會  
夜政府主催晚餐會  
九日(火) 朝觀兵式  
十日(水) 夜赤坂離宮晚餐(首相以下)  
十一日(木) 朝多摩陵御參拜  
十二日(金) 御外出アラセラレス  
十三日(土) 湯島聖堂御參拜  
陸軍衛戍病院  
十四日(日) 朝官城御參入  
晝御告別御會食

夜赤坂離宮晚餐(接伴員)

十五日(月)

朝御退京

京都へ(都ホテル)

十六日(火)

桃山陵御參拜

十七日(水)

京都御所

十八日(木)

二條離宮、金閣寺

十九日(金)

京都御發

奈良へ(奈良ホテル)

二十日(土)

正倉院、帝室博物館

春日神社、東大寺

二十一日(日)奈良御發

大阪へ

中央公會堂奉迎會

神戸へ(武庫離宮)

二十二日(月)御靜養

二十三日(火)神戸御乘艦

二十四日(水)午後宮島御巡覽

大連へ向ヶ御出港

(付記二)

外發秘第八九四號

昭和十年三月二十七日

(4月1日接受)

兵庫縣知事 湯澤 三千男〔印〕

内務大臣 後藤 文夫殿

外務大臣 廣田 弘毅殿

指定廳府縣長官殿

在上海內務書記官殿

關東局警務部長殿

臺灣警務局長殿

滿洲國皇帝陛下御來朝ニ際シ駐日民國公使ノ

動靜ニ關スル件

駐日民國公使

蔣作賓

右ハ本月二十九日夜東京出發翌三十日神戸港出帆汽船朝日

丸ニ乗船渡臺スペク之カ準備トシテ乘船切符ノ購入並ニ船室ノ豫約等ヲ爲シ居ル模様ニシテ渡臺ノ目的其他ニ就キ内査スルニ

滿洲國皇帝陛下ノ御來朝ニ際シ自國對滿洲國ノ特殊事情ニ

鑑ミ駐日民國使節トシテノ立場上本邦駐在各國使節ト行動ヲ共ニスルコトハ困難ナル事情アリ而シテ本國ニ一時歸國セムトセハ代理公使ノ任命ヲ必要トル等ノ理由ニヨリ苦慮ノ結果苦肉策トシテ領事館事務視察ノ名目ニテ滿洲國皇帝陛下御來朝期間一時臺灣ニ逃避旅行スルコトニ決意セシモノ、如シ

右及申(通)報候也

703 昭和10年5月1日 在滿州國南大使より  
広田外務大臣宛(電報)

帰國した滿州國皇帝が總理以下文武高官を宮中に招集し訪日の感想披瀝について

新京 5月1日後発  
本省 5月1日後着

第三九七號

往電第三九四號末段ノ軍側發電末段ニ關シ

四月三十日皇帝陛下ハ總理大臣以下在京簡任以上ノ文武官ヲ宮中ニ招集セラレ訪日御感想及將來ニ對スル御理想ヲ述ヘラレ且文武官ヲ激勵セラレタリ大要左ノ如シ

親善ノ徹底、東洋平和ノ確立、世界人類ノ福祉増進ニアリシカ天皇陛下ト互ニ御懇談申上ケタル結果今日ハ右ニ付固キ信念ト關心ト把握スルニ至レリ

即<sup>(2)</sup>チ日滿兩國元首カ心ヲ一ニシ日滿兩國親善ヲ徹底永久ナラシメ東洋道德ヲ世界ニ發揚スルコトニ依リ行詰レル西洋物質文明ノ弊ヲ救フコトヲ得ヘク世ノ所謂世界非常時ナルモノハ利己排他ノ西洋思想ニ原因スルモノニシテ之ヲ改ムルニ非サレハ決シテ非常時ヲ脱スル能ハス之ヲ救濟スルハ東洋精神即チ東洋ノ道義ニ基カサルヘカラス日滿親善ハ其ノ根柢ニシテ世界平和ノ先聲ナリ此ノ大理想ハ決シテ空想

ニ非スシテ必ス實現シ得ルモノト確信ス故ニ文武諸官ハ彼我ノ念ヲ超越シ利害ノ打算ヲ離レテ此ノ大理想實現ニ精進

シ國民ニ徹底セシメサルヘカラス日本ノ聯盟脫退ニ關スル

詔書中ニモ假令聯盟ヲ脫退ストモ國際ノ平和ヲ維持シ世界人類ノ幸福ヲ念トスル旨ヲ仰セラレ居リ滿洲建國ノ精神モ

亦執政宣言ニアル如ク世界ノ平和ト人類ノ福祉増進ニアリ

以上ノ理想ノ實現ニ依リテ滿洲建國ノ理想タル王道ノ實現ヲ期シ得ルナリ之ヲ要スルニ滿洲人ニシテ此ノ理想ヲ解セ

ス日本ニ不和ヲ計ルモノアラハ之朕ノ忠良ナル臣民ニ非ス

又日本人ニシテ滿洲國ノ爲ニ不和ヲ計ルモノアリトセハ之亦天皇陛下ノ忠良ナル臣民ニ非サルコトヲ斷言ス

右宮内大臣及關係ノ向ヘ御轉報請フ

委細郵報

昭和10年5月7日 在滿州國南大使より

廣田外務大臣宛

蒙古訪問者を制限するための取締規定を閲東

軍設定について

公機密第七六六號

(接受日不明)

入蒙取締暫行規定送付ノ件

近時入蒙希望者益々增加ノ傾向ニ在ル處一般ニ蒙古事情不案内ノ爲不知不識ノ間ニ蒙古人ニ大ナル苦痛ヲ與ヘ誤解惡感情ヲ誘發シ延ヒテ日滿兩國ニ不良ノ影響ヲ及ホセルコト

尠カラサルニ鑑ミ今般關東軍ニ於テハ當館トモ協議ノ上當分努メテ之ヲ制限スルヲ方針トシ滿洲國方面ヨリノ入蒙者ハ別紙暫行規定ニ依リ全部關東軍ノ許可ヲ受ケ現地ニ於テス

本信寫付先 在滿各公館長、在滿各公館警察署長分署長ス

ハ同軍特務機關ノ指導ニ從ハシムルコトトシタルニ付右ニ依リ御處理相成ルト共ニ入蒙希望ノ在留民ニ徹底方可然御配慮相成度尙本件ニ關シテハ關東軍司令部ヨリ軍内關係機關竝部隊ニ對シ細部ノ指示ヲ與ヘアル趣ニ付必要ノ場合ハ最寄軍關係機關ニ御照會相成様致度

本信寫付先 新京、奉天、哈爾賓、齊々哈爾、鄭家屯、錦州、赤峰、承德、海拉爾、滿洲里、北平、天津、張家口

本信寫付先 外務大臣、北平、天津、張家口

昭和10年5月9日 在滿州國南大使より

廣田外務大臣宛

滿州國皇帝が語つた訪日感想について

(接受日不明)

公機密第七八三號

昭和十年五月九日

在滿洲國

特命全權大使 南 次郎

外務大臣 廣田 弘毅殿

「滿洲國皇帝陛下御訪日感想御直話ノ一端」送付ノ件

滿洲國皇帝陛下御訪日感想ニ關シテハ本月二日付公機密第

昭和十年五月七日

在滿洲國特命全權大使 南 次郎

外務大臣 廣田 弘毅殿

昭和十年五月七日附合機密第五七二號新京外九公館長宛往信寫送付

合機密第五七二號

一、入蒙取締暫行規定送付ノ件

昭和十年五月七日 在滿洲國

特命全權大使 南 次郎

入蒙取締暫行規定送付ノ件

昭和十年五月七日 在滿洲國

特命全權大使 南 次郎

軍司令官兼全權大使謹話  
各兵團長、大使館、關東局、  
滿鐵職員會合席上

南軍司令官兼全權大使ハ四月二十八日滿洲國皇帝陛下御訪日ノ歴史的盛儀滞リナク御終了セラレシニ就キ御喜 言上ノ爲參内シタルニ皇帝陛下ニハ御熱誠ヲ御面ニ現ハサレ約一時間ニ亘リ滾滾トシテ盡キサル御訪日感想ヲ述ヘサセラレ更ニ西尾參謀長、谷參事官、鄭總理、沈宮内大臣、羅監察院長、張參議府議長、筑紫參議府副議長等ト共ニ御陪食ヲ賜リタルカ御食事ノ間ニ於カセラレテモ御訪日間ニ於ケル御感激ノ場面ヲ繰返シ御話アリ御至誠ノ迸ル御直話ヲ拜聽シテ一同感涙ヲ禁シ得サリキ

御談話ノ要旨ヲ綜合スレハ大様左ノ如シ

第一、日本皇室ニ對スル御感想

「四月六日東京驛ニ於テ初メテ日本天皇陛下ニ御目ニ懸リタル時其御親シミアル御様子ニ全ク感銘シタ其夜宮中テノ日本天皇陛下及 皇后陛下ノ御親シキ御待遇及滞在間ノ御厚情ニハ深ク感激シ從來ノ尊崇ノ念ヲ一層深メタ全ク御一家御一族ノ御親シミノ氣分ニ浸ツタ又 皇太后陛下ニハ御一族ノ様ナ御優遇ヲ受ケテ兩度御目ニ掛ツタ、第一回ハ餘

御辛ク感シタ又東京滯在中ハ毎日御花ヤ御菓子ヲ賜ハツタ更ニ武庫離宮ニ參ツタ時ニハ 皇太后陛下ヨリ態々御使ヲ遣サレタ其ノ御使者ハ東京ニテ御約束ノ御煙草ヲ持參セラレ又 皇太后陛下ノ御作リニナツタ二首ノ御和歌ヲ書カレタ御色紙ヲ届ケテ參ラレタノテアツタ其御和歌ハ東京ニテ御會見申上ケタ時ノ 皇太后陛下ノ御氣持ヲ御歌ヒ遊ハサレテヰタ此レハ滿洲國皇室ノ永久ノ貴キ寶テアル秩父宮及妃殿下カ大變厚キ御友情ヲ感セラレ親シク御殿ニ召サレタノミナラス時々御裏庭ヲ御散歩ノ時御目ニ掛ルコトカ出來終始御心カラナル御友情ヲ御示シニナラレタ事ハ衷心ヨリ感謝ノ外無ク永久ニ忘レル事ノ出來ナイナツカシイ印象テアル

又各皇族ノ御方方力非常ナ御熱誠ト御親シミトヲ以テ自分ヲ待遇シテ下サレタコトハ誠ニ感激ノ外ハナイ日本 皇室ヨリハ自分ハ全ク御一族ノ様ナ御親シイ御待遇ヲ受ケタ又日本 天皇陛下ト御會談申シ上ケ日滿親善ヲ徹底且永遠ナラシメルコトト日滿兩國一體ノ關係ノ萬代不易ナルコトトカ東洋平和ヲ確立スル基礎ニアツテ之ヲ擴大シテ世界人類ノ福祉ヲ増進シナケレハナラヌ之カ爲ニハ至誠ヲ以テ邁進

リニ時間カ短カカツタノテ何タカ心殘リノ感カアツテナラナカツタノテ更ニ第二回目ノ御面談ヲ御願ヒシタ次第テアル其際御話ニナツタ御事ハ眞ニ我子ニ對スルカ如キ御情誼ニ満タサレテ居ツタ後テ御伴ヲシテ御庭ノ御散策ニ參ツタ際御庭ノ中ノ東屋カラ坂ノ處マテ 皇太后陛下カ御歲モ召シテ居ラレルノヲ思ヒ御手ヲ執ツテ御助ケシタ時 皇太后陛下ニハ非常ニ御満足ノ御様子テアツタ其ノ時ノ感情ハ自分ノ言葉テハ言ヒ表シ得ナイ深イ感激ノ場面テアツタ又御散策ノ間ニ 皇太后陛下ハ「何時又皇帝陛下ト此ノ様ニ散步スル事カ出來ルタラウカ」ト申サレマシタニ對シ自分ハ 「皇太后陛下ニハイツマテモ御玉體ヲ御大切ニ遊サレ度ク自分ハ又非公式ニ日本ヲ御訪不申上ケル事モアリマセウカラ必ス亦此様ニ御散歩モ出來マセウ吳レ吳レモ御自愛ヲ御祈リ致シマス」ト申シ上ケタ、其ノ時 皇太后陛下ハ「今後毎夕ノ空ヲ見ル毎ニ必ス 皇帝陛下ノ御事ヲ御思ヒ申ステアリマセウ」ト申サレタノテ自分モ「將來每朝東ノ空ヲ見ル時ハ必ス 皇太后陛下ノ御コトヲ御思ヒ申上ケルテアリマセウ」ト申シテ皇太后陛下ト共ニ涙ヲ流シテ御別レシタ、此ノ様ニ 皇太后陛下ト御別レスル時ハ洵ニ

スルコトニ就テ全ク 天皇陛下ノ大御心ト自分ノ心トカ同一テアル事カ解ツタ次第テアル自分ハ日本 皇室ト同心一體トナツテ此ノ大理想ニ向ツテ邁進スル決心テアル

第二、日本國民ニ對スル御感想

「日本ノ全國民カ衷心ヨリ熱誠ナル歡迎ヲシテ吳レタノハ全ク感激ノ外ナイ横濱上陸以來東京滯在中ハ勿論ノ事東京カラ京都ニ赴ク沿道京都、奈良、大阪、神戸等ノ各地到ル處誠心、誠意ノ歡迎ヲ受ケタ就中可憐ナ小學生等力長時間雨中ニ佇立シテ自分ヲ歡迎シテ吳レタノハ見ル度毎ニ感極ツタ又田畑ニ働イテキル百姓カ頬包リヲ取ツテ合掌シテ自分ヲ拜シテ居ツタ事、瀬戸内海ノ漁師達カ少シテモ軍艦ニ近寄ツテ歡迎シタ事、遙カニ遠キ島々ノ人人力旗ヲ振ツテ歡迎シテ吳レタ事ハ全ク感激ノ外ハナイ

自分ハ日本ニ行ツテ始メテ君民一體ト言フコトカ判ツタ即チ一般國民カ友邦君主ニ對シテ斯クモ熱誠ナ歡迎ノ意ヲ表スカト言フ事ニ依ツテ日本國民カ如何ニ皇室ニ對シテ忠誠ノ念カ厚イカト言フ事ヲ知ル事カ出來タ

自分ハ訪日前カラ理想ト希望ヲ持ツテ居ツタ、ソシテ此度日本ノ 天皇陛下ト誠ヲ竭シテ御會談申上ケ 天皇陛下ノ

御心カ全ク自分ノ心ト相一致シテ居ルコトヲ知ツテ自分ノ希望及理想カ必ス實現達成スルト言フ確信ヲ持ツ事カ出来タ即チ日満親善ハ必ス徹底的ニ成就シ東洋ノ平和ヲ確立スル事カ出來ルト言フコトアル從テ滿洲國人テアツテ此ノ眞意ヲ解セスニ日本國ニ反意ヲ持ツカ又ハ不利ナ言動ヲスルモノカアレハ是レ則チ自分ニ對シテ不忠ノ臣民テアル又日本ノ臣民テアツテ滿洲國ニ不利ヲ計ルモノカアルナラハ是レ日本 天皇陛下ニ對シテ忠ナルモノト言フコトハ出來ヌ」

### 第三、御訪日間常ニ天候ニ惠マレタコトハ天意ナリトノ御感想

「今次ノ訪日ハ悉ク天候ニ恵マレテ居夕往路ニ於テハ海上多少ノ荒天テハアツタカ却テ勇壯ナ日本海軍ノ演習ヲ見ル事カ出來テ壯觀テアツタソシテ上陸ノ時ハ風波モ靜マツテ穩カトナツタ觀兵式ノ時モ前日ノ天氣豫報ハ殆ント雨天ノ様ニ思ハレテ居タカ觀兵式ノ間ハ雨モ降ラス陽ノ光サヘモ見エタ又多摩御陵參拜ノ時モ雨天タト言フ豫報テアツタニ拘ラスヨイ天氣テアツタ 次テ桃山ニ到ツテ 明治大帝ノ御陵ニ御參リシタ 明治大帝ヲ自分ハ一番崇拜シ又最モ偉

ラネハナラナイ是レ日満兩國ノ天ヨリ與ヘラレタ大使命テアルト確信スル」

### 第四、御訪日後ノ御確信

「ソコテ自分ハ二十四日宮島ニ於テ愈々日本ヲ辭スル時ニ接伴委員長テアル林男爵ニ次ノヤウニ言ツタ

「日満兩國ハ絶對ニ緊密ニシテ永遠ニ不可分關係ニアラネハナラナイ此ノ兩國ノ緊密關係ハ西洋式ノ利害ヲ以テ結ヒ付クノテハ不可<sup>(アマ)</sup>ナイ利害ニ依ルモノハ時ニ離レル事カアル兩國ハ東洋ノ道義ヲ基礎トスル精神的ノモノテアラネハナラヌ

三、日満兩國ハ其不可分關係ヲ將來益々強固ニスルト共ニ之レヲ永久的ナモノトセナケレハナラナイソノ時始メテ東洋平和ノ基礎力成リ立ツテ世界人類ノ福祉ニ寄與スル所以トナル

ネハナラヌ

メ東洋ノ平和ヲ確立シ以テ世界人類ノ福祉ヲ増進スルト言フ理想ヲ持ツテ居ツタソシテ今回ノ訪日ニ依ツテ此ノ自分ハ日本ヲ離レテ以來船中ニ於テモ色々考ヘタ結果自

大ナル御方テアルト思ツテキル丁度御參リシタ時ニハ糠雨カ降ツテ薄絹ノ幕ヲ下シタ様ナ景色トナツテ何トモ言ヘナイ神秘的ナ壯嚴ノ氣ニ打タレタ

英靈ニ對シテ日満親善ノ徹底且永遠ナルヤウ御加護アラセラレンコトヲ御祈シ在天ノ御英靈ノ御冥福ヲ祈ツテ涙ノ落ツルヲ禁シ得ナカツタカ陵前ヲ退下スルニ及シテ霧雨モ霽レタ恰モ康熙帝ノ亡クナラレタ時ニ遽カニ雪カ降ソテ萬物ヲ覆ツテ淨化シタト聞イテ居ルカ「天人感應ス」ト言フコトヲ如實ニ見タ次第テ天人相通スルモノノアルヲ痛感シタ桃山御陵ヲ出テ歸リ途ニ一社ヲ見テ「何カ」ト尋ネルト乃木神社ト言フ事テアツタカラ自分ハ卽座ニ忠臣乃木ノ千古ノ龜鑑テアル君臣ノ義ヲ思ヒ起シ思ハス落涙シタ甚タ突然テハアツタカ直チニ侍從武官長張上將ヲシテ乃木ノ忠靈ヲ弔ハシメテ稍心持ノ安キヲ覺エタ  
以上ノ様ナ天候ノ經過ヲ考ヘテミルト人力以上ノアルモノカ日満兩國ヲ助ケテ居ラル様ナ感シカシテナラナイ確ニ天意カ加ハツテキルト固ク信シテ疑ハナイ故ニ日満兩國ハ相共ニ提携シテ東洋精神ヲ發揚シ世界人類ノ福祉増進ヲ計

五月一日ニハ軍司令官カ全滿ノ日本文武官ヲ集メテ訓示セラル、事ニナツテ居ルトノコトアルカ五月二日ニハ自分ハ全滿ノ省長、軍管區司令官及新京ノ國務大臣以下文武百官ヲ集メテ詔書ヲ與ヘル積リテアル此ノ詔書ニハ今回訪日ニ依ツテ得タ自分ノ意志ヲ強調シテ國民ノ嚮つ所ヲ明示シヤウト思フ今後ハ民族相互ノ融和結合力最モ大切テアルト信スル自分ハ全滿文武百官ニ好ク此旨ヲ達シテ今後地方行政ニ當ラシメ度イト思フ」  
以上皇帝陛下ノ御談話ハ非常ナル御感激ヲ以テセラレ信念の御確信ヲ得ラタルモノ、如ク拜察セリ日本 天皇及皇后兩陛下ノ御親シキ御友情ニ全ク御兄弟ノ如ク感セラレタリトノ御感想ハ御午餐賜ハル席上殊ノ外御感<sup>(アマ)</sup>深ク述懷セラ

レ特ニ四月十四日秩父宮殿下カ赤坂離宮ニ持參セラレシ

皇太后陛下ヨリ賜ハリシ御菓子ハ秩父宮殿下高松宮殿下方  
カ御幼少ノ御時御遠足ノ折等ニ御辨當トシテ皇太后陛下御

親ヲ御心遣ヒ遊ハサレシ御菓子及重箱壽司ニ模シテ作ラレ

シモノニシテ皇帝陛下ハ皇太后陛下カ自分ヲ我カ子ノ如ク

御優遇セラレタル御仁愛ヲ知ル事ヲ得テ御感激ニ耐ヘサリ

シ旨御縁返シテ御熱誠ニ話サレタリ蓋シ非常ナル御感激ニ

打タレ給ヒシ結果ナルヘシ其ノ御眞情溢ル、御様子ニハ鄭

總理ヲ始メ西尾參謀長以下並居ル一同皆感涙ヲ流ササルモ

ノナカリキ思フニ支那ニ於テハ古來孝道ヲ以テ政治ノ中心

トナスヲ明君トス今次御訪日ニ際シ皇太后陛下カ 皇帝陛

下ヲ我カ子ノ如ク御待遇セラレ 皇帝モ亦子供ノ如キ御親

シミヲ感セラレテ殊ニ非常ナ御感動ヲ受ケラレタルモノト

拜察セラル御午餐後侍從ニ命セラレテ 皇太后陛下ヨリ贈

ラレシ御色紙ヲ收メラレタル御文箱ヲ取寄セラレ 同ニ御

示シニナリ御感激深キ御有様ハ到底筆紙ノ能ク盡ス所ニア

ラス唯靈氣ノ漂フヲ覺ユルノミ其ノ和歌ハ次ノ二首ナリ

滿洲國皇帝ニ會見ノオリニヨメル

若松の一本そへし心地して

要スルニ滿洲國皇帝陛下今次ノ御訪日ハ非常ナル重大事ニ  
シテ上記ノ如キ偉大ナル成果ヲ收メラレ是レ全ク聖上陛下  
ノ御稟威ト御高德ノ然ラシムル處ニシテ啻ニ日滿兩國ノ大  
慶事ナルノミナラス東洋平和ノ礎石之ニ依リテ愈々確立シ  
タルモノト認ムルヲ得ヘシ

その御心にしたしまれつつ

未たのもしき春の庭かな  
御會見後ノ御感想ヲ傳ヘキ、テ

我れをしも御母の如くおぼしつる

編注 本文書中の闕字は原文通り。

706 昭和10年5月10日 在滿州國南大臣宛(電報)

滿洲國石油專賣制實施に伴う英米石油会社の

保有石油類の処分方法に関する滿州國側対応

振りについて

付記 十二月十二日付大橋(忠一)滿州國外交部次長

トナスヲ明君トス今次御訪日ニ際シ皇太后陛下カ 皇帝陛

下ヲ我カ子ノ如ク御待遇セラレ 皇帝モ亦子供ノ如キ御親

シミヲ感セラレテ殊ニ非常ナ御感動ヲ受ケラレタルモノト

拜察セラル御午餐後侍從ニ命セラレテ 皇太后陛下ヨリ贈

ラレシ御色紙ヲ收メラレタル御文箱ヲ取寄セラレ 同ニ御

示シニナリ御感激深キ御有様ハ到底筆紙ノ能ク盡ス所ニア

ラス唯靈氣ノ漂フヲ覺ユルノミ其ノ和歌ハ次ノ二首ナリ

滿洲國皇帝ニ會見ノオリニヨメル

若松の一本そへし心地して

より星野(直樹)同國財政部總務司長宛公信外  
通秘第一四二号

滿洲國石油專賣制實施に伴い英米側が損害賠  
償請求について

新京 5月10日後發  
本省 5月10日後着

第四四一號

(付記)  
外通秘第一四二號

康德二年十一月十二日

外交部次長 大橋 忠一

財政部總務司長 星野 直樹殿

石油專賣制ニ關聯スル英米側損害賠償申出ニ關スル件

事ヨリ同様ノ内報アリタリ)財政部ハ本件ニ對シテハ出來  
得ル限り便宜ヲ計リタキ意嚮ナルモ不取敢右申出ノ理由ヲ

承知シタキニ付來京ヲ希望スル旨本十日附書翰ヲ以テ回答

ヲ發シタル趣ナルカ同部トシテ一應彼等ニ對シ一般業者ニ

賣捌キ方ヲ勧メ右困難ナラハ政府賣捌人ニ於テ買入方ヲ幹

旋スヘキ旨ヲ述ヘ先方カ應諾セサル場合ニハ已ムヲ得ス戾

稅ヲ實行スヘク何レニスルモ出來得ル限り穩便ノ措置ヲ講  
スヘキ意嚮ヲ有シ居ル趣ナリ

六 滿州國をめぐる諸問題

本官ハ元來例へハ米國ニ於テ土地法又ハ移民法制定ノ結果日本人カ損害ヲ受ケタル場合ニ於テ米國政府カ是ヲ賠償シタルカ如キ例ヲ聞カス從ツテ滿洲國ニ於テ石油專賣制適用ノ結果三社側カ損害ヲ受クルコトアリタリトテ滿洲國ニ於テ是カ賠償ノ責任ヲ有スルモノトハ思ハレス從ツテ三社ノ要請ハ到底財政部ニ於テ承諾セラレサルヘシト答ヘタル處兩人ハ三社側ハ本件カ何時迄モ未解決ノ爲メ施設物維持ノ爲メ經費ヲ要シ損失ヲ加重シ居ル様ノ狀態ニテ困却シ居リ財政部當局中ニハ損害賠償ヲ支拂ハサルノミナラス施設物ニテモ只滿洲國ニ必要ナル分ノミヲ買收スヘシト述フルモノアリ如斯ハ三社側ノ到底承諾スル限りニ非ス從テ三社中ニハ一層ノコト施設物ヲ取り放シテ持チ去リテハ如何トノ議論モアル次第ナリト述ヘ荐リニ損害賠償ノ主義ヲ認メラレタキ旨主張シタルニ付本官ハ財政部カ施設物ノ内必要ナル分ノミヲ買收セント主張シ居ルコトハ承知シ居ラス兎ニ角此際自分トシテハ財政部ニ對シ施設物ノ評價ヲ急ク様勸告スルコト及右評價決定シテ愈々三社側ト交渉開始ノ場合可成高キ價格ヲ以テ買收スル様仲介スル位カ適當ナルヘキニ付三社側ニ對シ損害賠償ノ主義ヲ認メヨト云フカ如キ固

707 昭和10年5月22日調印

## 図們江国境を通過する列車直通運転および税

## 関手続簡捷に関する協定

付記 五月、外務省作成

日本國政府及滿洲國政府ハ日本國鐵道ト滿洲國鐵道トノ間ニ圖們江國境ヲ通過スル列車直通運轉ヲ行フト共ニ右鐵道ニ依リ輸送セラルル物品ニ關スル稅關手續ヲ簡捷ナラシメシガ爲左ノ如ク協定セリ

## 第一條

日本國政府ハ滿洲國政府ガ其ノ稅關官吏ヲ雄基、羅津及清津ニ於ケル日本國稅關ニ派シ右ノ地ニ宛テ(右ノ地ヲ經由スルモノヲ含ム)滿洲國ヨリ輸出セラレ又ハ右ノ地ヨリ(右ノ地ヲ經由スルモノヲ含ム)滿洲國ニ輸入セラルル貨物、小荷物、託送手荷物及旅客附隨小荷物ニシテ前條ニ掲グル

日本國政府ハ各自國稅關官吏ヲシテ列車ガ該停車場ニ停車中車ニ於テ前項ニ準ジテ其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得尤モ發車時刻迄ニ右職務ノ執行ヲ了リ難キトキハ發車後車中ニ於テ又ハ當該物品ヲ荷物検査場ニ卸サシメテ右職務ヲ行ハシムルコトヲ得

## 第二條

日本國政府ハ各自國ノ稅關官吏ヲ日本國稅關ノ構内ニ於テ日本國稅關官吏ト共同ニ検査及關稅收受ノ職務ヲ行ハシムルコトニ同意ス

## 第三條

日本國政府ハ各自國ノ稅關官吏ヲ日本國政府ニ在リテハ圖們停車場ニ設置セラルベキ荷物検査場ニ、滿洲國政府ニ在リテハ上三峰停車場ニ設置セラルベキ荷物検査場ニ派シ第一條ニ掲グ爾鐵道ニ依リ兩國ノ國境ヲ越エトテ輸送セラル貨物、小荷物、託送手荷物及旅客附隨小荷物ニシテ前條ニ該當セザルモノ並ニ旅客携帶品ニ付相手國稅關官吏ト共

苦シキ主張ヲ止メ前述ノ如キ實際的方法ニ依リ解決スル様勸告アリ度キ旨述ヘ尙本件ニ關シテハ何レ星野財政部總務司長歸來ノ上協議シ何等カ回答スヘシト云ヒ會見ヲ打切レリ右報告ス

本信寫送付先 總務廳長、大使館各參事官、關東軍第三課長

本信寫送付先 總務廳長、大使館各參事官、關東軍第三課長

稅關官吏ノ検査ヲ先ニス其ノ他ノ職務ノ執行ハ検査ノ順序

ニ依ルモノトス

#### 第六條

日滿兩國政府ハ支障ナキ限り本協定ニ依リ自國內ニ派遣セラレタル相手國ノ稅關官吏ノ職務執行ニ關シ便宜ヲ供與スベキコトヲ約ス

#### 第七條

本協定ニ定メタル稅關手續ニ關シ必要ナル細目ハ朝鮮總督ト滿洲國財政部大臣トノ間ニ協定セラルベキモノトス

#### 第八條

本協定ハ署名ノ日ニ效力ヲ發生シ日滿兩國政府ノ何レカノ一方ガ本協定ヲ終了セシムルノ意思ヲ他方ニ通告シタルヨリ三月ノ期間ノ滿了ニ至ル迄引續キ效力ヲ有スベシ

#### 第九條

本協定ハ日本文及漢文ヲ以テ各ニ通ヲ作成ス日本文本文ト漢文本文トノ間ニ解釋ヲ異ニスルトキハ日本文本文ニ據ルモノトス

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本協

定ニ署名調印セリ

昭和十年五月二十二日即チ康德二年五月二十二日新京ニ於テ之ヲ作成ス

日本帝國特命全權大使 南 次郎(印)

滿洲帝國外交部大臣 張 燕 卿(印)

#### (付記)

昭和十年五月

圖們江國境ヲ通過スル列車直通運轉及稅關手續

簡捷ニ關スル協定案ノ説明書

外務省

緒言。

日本海ヲ中心トスル日滿間ノ交通ハ明治四十二年以來ノ懸案タリシ所謂吉會鐵道ノ完成ニ依リ全ク面目ヲ一新シ、今ヤ右交通路ハ日滿兩國ノ首都ヲ連絡スル最短路線タルト同時ニ歐、亞、米ノ三大陸ヲ連絡スルモノト言フヘク、其ノ政治世界ノ公道ノ上ニ置カントスルモノト言フヘク、其ノ政治的經濟的意義頗ル大ナルモノアリ、更ニ又前記鐵道ノ終端

港タル雄基、羅津、清津ノ北鮮諸港カ我カ日本列島ヲ連ヌル圓弧ノ略中心ニ位シ帝國ノ各重要都市ヘノ距離殆ト相等シキ地位ニ在ルコト並ニ其ノ背後地タル東滿及北鮮地方ノ新設鐵道計畫力現ニ著々進捗シツツアルコト等ノ事實ニ顧ルニ、日本海ヲ中心トスル新交通路ハ速ニ整備ヲ圖リ其ノ使命ヲ發揮セシムルノ要アリ。故ニ政府ハ昭和八年十月一日北鮮地方ノ鐵道及港灣ヲ滿洲國國有鐵道ト同様南滿洲鐵道株式會社ノ委任經營下ニ置キ以テ鮮滿兩鐵道ノ合理的連絡乃至統一ヲ期スルコトトシ又現ニ北鮮諸港ト裏日本諸港トノ間ノ航路ノ改善等右交通路ノ整備ニ付考慮ヲ加ヘツツアルモ、右交通路利用ニ當リ日滿兩國側ニ於テ鮮滿國境地點及北鮮ノ終端港ニ於ケル稅關手續ヲ各別ニ重複實施スルノ制度ヲ改メサル限り貨物積換等ニ重手續ノ爲時間及費用ノ上ニ多大ノ損失ヲ生シ、折角ノ日滿間最短交通路モ結局其ノ實ヲ舉ケ難キ次第ナリ。

仍テ政府ハ現ニ大連ニハ明治四十年大連海關設置及內水汽船航行ニ關スル協定ニ依リ滿洲國稅關設置セラレ居り、又歐洲諸國ニ於テハ此ノ種國境關係複雜セル地方ノ特殊ノ事

情ニ應スル爲特ニ國際協定ヲ締結シテ稅關手續ノ單一化ヲ

圖リ居ル事例多數存スル實情ナルニモ鑑ミ、日滿兩國ニ於テモ兩國間ノ協定ヲ以テ圖們江國境ヲ通過スル列車ノ直通運轉ノ行ハルルコトヲ認ムルト共ニ、便宜相互ニ他方國稅關官吏カ自國內一定地點ノ稅關内ニ出張シ自國稅關官吏ト共同シテ輸出入物品ノ検査及關稅收受ノ職務ヲ行フコトヲ容認スルノ方法ニ依リ出來得ル限り稅關手續ノ簡易化ヲ圖リ、以テ新交通路ノ使命ヲ充分ニ發揮セシムルコト肝要ナルヲ認め、客年以來在滿大使ヲ通シ滿洲國政府ト交渉中ナリシ處、今般「圖們江國境ヲ通過スル列車直通運轉及稅關手續簡捷ニ關スル協定」ノ案文ニ付意見ノ合致ヲ見ルニ至レリ。

本協定ハ前文及九條ヨリ成ル、其ノ要旨ヲ逐條說明スルコト左ノ如シ。尙別圖御參照アリタシ。(以下省略)

編注 別図は省略。なお本案は五月十五日、枢密院本會議に

おいて可決された。

## 日滿經濟共同委員會設置に関する協定

付記 七月十五日発表

右協定に関する外務省當局談  
日滿經濟共同委員會設置二關スル協定

日本國政府及滿洲國政府ハ日本國及滿洲國ノ間ニ現ニ存ス

ル日滿兩國ノ經濟上ノ依存關係ヲ永遠ニ鞏固ナラシムル爲  
日滿兩國經濟ノ合理的融合ヲ實現センコトヲ希望シタルニ  
因リ

兩國政府ハ昭和七年九月十五日即チ大同元年九月十五日調  
印ノ日本國滿洲國間議定書ノ趣旨ニ據リ日滿兩國相互間ノ  
重要ナル經濟問題ニ關シテモ日滿兩國ハ充分且緊密ニ共同  
ノ實ヲ擧グルノ必要ナルヲ認メタルニ因リ  
兩國政府ハ日滿經濟共同委員會ヲ設置スルコトニ決シ茲ニ  
左ノ如ク協定セリ

第一條 滿洲國新京ニ日滿經濟共同委員會ヲ設置ス

第二條 委員會ハ日滿兩國經濟ノ連繫ニ關スル重要事項及日滿合辦  
特殊會社ノ業務ノ監督ニ關スル重要事項ニ付日滿兩國政府

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本協  
定ニ署名調印セリ

昭和十年七月十五日即チ康德二年七月十五日新京ニ於テ本  
協定ハ署名ノ日ヨリ實施セラルベシ

本協定ノ正文ハ日本文及漢文トシ日本文本文ト漢文本文ト  
ノ間ニ解釋ヲ異ニスルトキハ日本文本文ニ依リ之ヲ決ス

第五條 委員會ノ組織及運用ニ付テハ本協定附屬書ノ定ムル所ニ依  
ル

第六條 第六條

### 書二通ヲ作成ス

日本帝國特命全權大使 南次郎(印)

滿洲帝國外交部大臣 張燕卿(印)

(付記)

(昭和十年七月十五日)

日滿經濟共同委員會設置協定ニ關スル當局談

一 委員會ノ委員ハ八名トシ日滿兩國政府ハ各四名ヲ任命  
シ相互ニ之ヲ通報スベシ委員事故アルトキハ其ノ代理者  
ニ付滿洲國駐箚日本帝國特命全權大使滿洲國國務總理大  
臣相互協議ノ上之ヲ出席セシムルコトヲ得代理者ハ委員  
ノ名ニ於テ其ノ職ヲ行フ

右ノ外日滿兩國政府ハ必要ニ應ジ協議ノ上各同數ノ臨時  
委員ヲ任命スルコトヲ得

二 議長ハ委員中ヨリ之ヲ互選ス

三 委員會ニ幹事若干名ヲ置ク幹事ハ庶務ヲ整理ス

幹事ハ隨員中ヨリ日滿兩國政府各同數ヲ任命スルモノト  
ス

四 委員會ノ議事ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルト  
キハ議長ノ決スル所ニ依ル

議長ハ委員トシテ議決ニ加ハルコトヲ妨げズ

外國ニ於ケル先例等モ考慮シ又日滿兩國間特殊緊密ノ關係  
シムル爲兩國經濟ノ合理的融合ヲ實現セムコトヲ希望シ諸  
國政府ノ諮詢ニ應スル機關トシテ日滿經濟共同委員會ヲ設  
置スルコトニ付兩國政府ノ意見完全ニ合致シ本日右ニ關ス  
ル協定ノ調印ヲ見ルニ至ツタコトハ誠ニ慶賀ノ至リテアル。

ノ詰問ニ應ジ其ノ意見ヲ兩國政府ニ具申スベキモノトス

第三條

日滿兩國政府ハ前條ノ事項ニ付テハ豫メ之ヲ委員會ニ詰問  
シ其ノ意見ヲ俟テ之ヲ處理スベキモノトス

第四條

委員會ハ必要ニ應ジ日滿兩國經濟ノ合理的融合ニ關スル  
切ノ事項ニ付日滿兩國政府ニ建議スルコトヲ得

第五條

委員會ノ組織及運用ニ付テハ本協定附屬書ノ定ムル所ニ依  
ル

第六條

今後本委員會ノ運用ニ依ツテ日滿兩國ノ經濟上ノ依存關係ヲ益々鞏固ナラシメ以テ東亞ノ安寧福祉ニ貢獻センコトハ帝國政府ノ希望シテ已マサル所テアル。

709 昭和10年7月20日 在滿州國南大使より  
広田外務大臣宛

**満州國警察官の満鉄付屬地駅派遣に関する満州民政部および關東局の措置について**

公機密第一三四三號

昭和十年七月二十日

(7月29日接受)

在滿洲國

特命全權大使 南 次郎〔印〕

外務大臣 廣田 弘毅殿

満洲國警察官吏滿鐵附屬地驛派遣ニ關スル件

本件ニ關シ満洲國民政部ト關東局トノ間ニ於テ内密協議ヲ進メラレツ、アリシカ兩者ノ意見一致シ本月十五日ヨリ實施スルコト、ナリ中央警務聯絡會報ニ於テ關東局ヨリ日滿各警務機關ニ内示セラレタルカ其ノ内容別添ノ通りニ付右申進ス

本信寫送附先 新京、奉天、營口、安東

(別添)

(一) 滿洲國警察官吏ノ附屬地驛派遣ニ關スル件  
關東局ニ於テハ滿鐵附屬地各停車場ニ満洲國警察官派遣方ヲ左記ノ如キ要綱ニヨリ申出アリタルニ付キ之ヲ承認シ本月十五日ヨリ實施スルコトトナリタルカ關東局警務部及満洲國警務司ヨリ各其ノ所屬機關ニ對シ實施ニ就テノ注意通牒ヲ發シ遺憾ナキヲ期セリ  
記

1、派遣ノ箇所及人員

満鐵附屬地各驛ニ正私服警察官若干名但正服一名私服二名ヲ標準トス  
2、派遣警察官吏ノ服務  
イ、驛内外ニ在リテ來降満洲國人ノ動靜ヲ視察シ要視察人、要注意人ノ移動ヲ警戒ス  
ロ、直接警察權ヲ行使スルコトナシ、但シ日本側警察官ノ求メアルトキハ之ヲ援助ス

710 昭和10年8月9日 閣議決定

**満州国における治外法権撤廃および南満州鉄道付属地行政権の調整・移譲について**

(一〇、八、九閣議決定)

理由

満洲國ニ於ケル帝國ノ治外法権ノ撤廃及南満洲鐵道付屬地行政権ノ調整乃至密讓ニ關スル件

満洲國ニ於ケル帝國ノ治外法権及南満洲鐵道付屬地行政権ニ付テハ左記方針ニ依リ關係官廳ヲシテ具体の方策ヲ攻究セシメ逐次之力實行ヲ期スルモノトス  
一、満洲國ニ於ケル帝國ノ治外法権ニ關シテハ從來ノ條約及

追而本件ニ關シ民政部大臣關東局總長間ニ協定アリタル旨七月一日發行ノ當地ノ新聞紙ニ掲載セラレシヲ以テ現在ノ日滿關係ニ於テ實際上ハ兔二角形式及方法ニ於テ不穩當ト認メ満洲國及關東局ニ對シ接衝シタル結果前記ノ如キ形式ヲ取ルコト、ナリ又本來本件ハ單ニ治外法権撤廃迄ノ間ニ於ケル日本警察官ノ執務振見學ノ意味ニ於テ內的ニ關係當局者間ニ於テ試ミニ實施スル主旨ナルニ付右御含置アリ度シ

一、帝國ノ満洲國ニ對スル國策ノ基調トスル所ハ曩ニ昭和八年三月漢發セラレタル國際聯盟脫退ニ關スル詔書並昭和七年九月十五日調印ノ日滿議定書等ニ依リテ宣言セラレタル通滿洲國ヲシテ帝國ト不可分ノ關係ヲ持シツツ獨立國トシテ健全ナル發達ヲ爲サシムルニ在リ仍テ帝國政府ハ右根本方針ニ基キ一面日滿兩國不可分關係強化ノ爲各

般ノ措置ヲ講スルト共ニ他面滿洲國ヲシテ政治經濟財政其ノ他庶政ヲ充實シテ健全ナル發達ヲ遂ケ帝國ト實質的  
一体ヲ爲ス東亞ノ雄邦トシテ帝國々運ノ伸長乃至東洋ノ  
平和ヲ確保シ大義ヲ宇内ニ顯揚セントスル帝國ノ國策ニ  
寄與スルニ至ラシムルコトヲ期シツツアル次第ナリ。

三、然ルニ現ニ滿洲國ニ於テ帝國力條約上享有シ居ル治外法  
權ハ滿洲國成立前ノ事態ニ於テハ帝國ノ對滿發展ノ主要  
ナル條件ナリシモ前記我對滿國策ノ進歩ニ伴ヒ漸次其ノ  
重要性ヲ失フニ至レルト同時ニ、滿洲國ノ健全ナル發達  
ヲ遂ケシムル上ニ於テハ勿論、眞ニ日滿兩國民ノ融和ヲ  
圖リ滿洲國ニ於ケル我國民ノ全面的發展ヲ可能且確實ナ  
ラシメ、進ンテハ日滿兩國善隣不可分ノ關係ヲ永遠ニ強  
固ナラシムル上ニ於テモ、之力撤廢ヲ必要トスルニ至レ  
リ。依テ狀況ノ許ス限り速ニ治外法權ノ撤廢ヲ實行スル  
ヲ適當トス。

更ニ英米等ノ諸外國ハ支那國ニ於テ有シタル權利利益ヲ  
滿洲國ニ於テ確認尊重スヘキコトヲ規定セル條約ナキヲ  
以テ、滿洲國側ニ於テハ同國ニ於テ條約上治外法權ヲ享  
有セサルモノト爲シ居ルモ、事實上ハ此等諸外國ヲシテ

711 昭和10年8月15日 在滿州國南大使より  
広田外務大臣宛(電報)

商租に関する紛議調停のため滿州国が商租権  
審定法を制定について

別電 八月十五日発在滿州國南大使より広田外務大  
臣宛第七五二号  
右商租権審定法要綱

新 京 8月15日後発  
本 省 8月15日後着

第七五一號

一、大正四年ノ滿蒙條約中商租権ニ關シテハ事變前東北政權

ノ各種壓迫の措置ノ結果帝國臣民ノ設定シタル商租権中  
ニハ支那人名義其ノ他ニ依リ形式上極メテ不確實ナルモ  
ノ多々アリ其ノ間ニ重賣買等モ行ハレ各地ニ紛議頻出ス

ルニ鑑ミ滿洲國ニ於テハ別電要綱ノ如キ商租権審定法ヲ  
制定シ以テ既成商租ノ確認ニ資セント今般當館ノ同意ヲ  
求メ來レリ

三、然ルニ商租権審定委員會ノ審決ハ別電ノ通り法院ノ爲シ  
タル確定判決ニ依リ同一ノ效力ヲ有スルモ土地局長ノ爲シ  
求メ來レリ

治外法權的地位ヲ保持セシメ居ル處、右ハ滿洲國ノ健全  
ナル發達ニ著シキ障礙ヲ及ホシ居ルコト勿論ナルヲ以テ、  
先ツ帝國ニ於テ治外法權ノ撤廢ヲ實行シ、以テ此等諸外  
國ヲシテ帝國ニ準シ其ノ事實上保持スル治外法權的地位  
ヲ拠棄スルニ至ラシムルコトヲ要ス。

四、尙南滿洲鐵道附屬地行政權ニ付テモ前記治外法權撤廢ノ  
必要ニ準シ新ナル考慮ヲ加フルノ要アルト共ニ其ノ漸次  
撤廢セラルルニ伴ヒ必然ニ之力調整乃至移讓ヲ圖ルノ必  
要ヲ加フヘシ、依テ治外法權ノ漸進的撤廢ト步調ヲ合セ  
十分各般ノ事情ヲ考慮シ實情ニ即應シテ附屬地行政權ノ  
調整乃至移讓ヲ實行スルヲ適當トス。

四、滿洲國ニ於ケル帝國ノ治外法權ノ撤廢及南滿洲鐵道附屬  
地行政權ノ調整乃至移讓ニ當リテハ滿洲國ニ於ケル制度  
及施設ノ整備ニ對應シ就中在留帝國臣民ノ生活ニ急激ナ  
ル變動ヲ與ヘサルコト、滿洲國ノ全領域ニ於ケル帝國臣  
民ノ安全發展ヲ一層確保スルコト及滿洲國ニ對スル帝國  
ノ國策遂行ヲ圓滑ナラシムルコトニ付特ニ考慮スルノミ  
ナラス益々日滿兩國不可分關係ノ強化充實ニ努ムルハ勿  
論トス。

第一段ノ審定ノ際領事館等ニ調査ヲ囑託スルコトトナ  
リ居リ又右委員會ノ委員ニハ外交部高等官ヲ含ミ居ル趣  
旨ハ委員會ノ審決ニ當リ日本側見解ヲ充分表示シ得ル餘  
地ヲ存スル爲ナルコト及滿蒙條約第五條ニ於テモ土地ニ  
關スル訴訟ニ付支那國ノ法律ニ依ル旨ヲ規定シ居ルニモ  
鑑ミ更ニ又本法ヲ默認スルニ於テモ必スシモ外交交渉ヲ  
拋棄スル建前ニモアラサルニモ鑑ミ產業及課稅法規適用  
承認ノ際ハ土地所有權問題ト關聯シ本法ヲ正式ニ承認ス  
ルコトトシ夫迄ハ默認シ以テ事實上帝國臣民ノ利益ヲ擁  
護スルコト適當ナリト存スルモ貴見何分ノ儀至急御回示  
ヲ請フ

海拉爾、滿洲里、承德、赤峯ヲ除ク在滿各領事ヘ轉電セリ

(別電)

新 京 8月15日後発  
本 省 8月15日後着

第七五一號

一、商租権ノ存否及範圍ニ付紛議ヲ生シタルトキハ土地局長  
ニ對シ審定ヲ申請スルコトヲ得

三、右審定ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル第三者ハ其ノ審定手

續ニ參加スルコトヲ得

三、土地局長ハ必要ナル事項ノ調査ヲ官公署ニ囑託スルコト

ヲ得

四、當事者又ハ參加人土地局長ノ審決ニ不服アルトキハ商租

權審定委員會ニ再審定ノ申請ヲ爲スコトヲ得

五、商租權審定委員會ノ審決ハ法院ノ確定判決ト同一ノ效力

ヲ有ス

六、右審定委員會ノ組織及權限ニ關シテハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトトナリ居リ右勅令案要領左ノ通

イ、同委員會ハ國務總理大臣ノ管理ニ屬シ商租權審定法ニ依リ商租權ノ審定ヲ爲ス

口、委員長ハ高等法院長ヲ以テ之ニ充テ委員ハ民政部土地局、外交部、司法部各部高等官及最高法院推事ヨリ

國務總理大臣各一名ヲ命ス  
本電ノ通り轉電セリ

712 昭和10年10月19日 在奉天宇佐美總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

奉天市における商租および永租土地增加稅法の実施をめぐる土地審定委員會設置等の問題  
点につき在満州國南大使に照会について

奉天 10月19日後発  
本省 10月19日後発

第一三七號  
本官發滿宛電報

第一六九號

今般市政公署ヨリ客月九日附普通第七〇五號拙信所報奉天

市稅條例中商租及永租土地增加稅法(第四章第三節及附則第四項參照)實施ノ必要上市長ノ決定スヘキ土地原價査定ノ諮詢機關トシテ土地審定委員會ヲ組織スルコトトナリタ

ルニ付第三國人代表トシテ英國總領事ノ參加ヲ求ムヘク既ニ案(内)狀ヲ發シタル外日本側ヨリ本官ノ指定スル委員約三名(當館員、居留民會長及土地金融業者一名)ノ參加ヲ得度キ旨申出アリ尙市政公署側ノ說明ニ依レハ本件課稅ヲ邦人ニモ適用スル意嚮ナル處(邦人ニ對スル本稅法適用ニ付テハ新京ニ於テ大使館ト打合濟ト想像スト稱シ居レルニ付我方ニハ新タニ何等斯ル訓令ヲ受ケ居ラスト說明シ置キタ

(欄外記入)

領事團ハ舊時支那ニ於ケル領事團ノ舊慣ヲ踏襲スルハ不可、日本領事トシテハ全然別個ノ立場ヲトリ且ツ舊時ノ集會的團體タル領事團ノ如キハ之ヲ破壞スルヲ要スベシ

713 昭和10年10月21日 在満州國南大使より  
広田外務大臣宛(電報)  
奉天市における商租および永租土地增加稅法の実施をめぐる問題点につき在奉天宇佐美總領事に回答について

新 京 10月21日後発  
本省 10月21日後着

第九一三號

本使發奉天宛電報  
第七一號  
尙本件ニ付テハ英國ヨリ領事團代表者ノ委員會參加ヲ差控フル趣旨ヲ以テ市長ニ回答方照會越シタル處領事團ノ取扱シテハ右ニテ差支ナカルヘシト存ス  
トシテハ大臣へ轉電シ吉林、哈爾賓、間島へ暗送セリ

六 満州國をめぐる諸問題  
(欄外記入)  
新 京  
大臣へ轉電アリタシ

土地審定委員會ニ民間側ヨリ委員ヲ參加セシムルハ差支キモ土地增加稅法ヲ本邦人ニ適用スルコトニ關シテハ満洲國側ヨリ何等當館側ニ協議越シタルコトナキノミナラス御

承知ノ通り課稅權服從問題ニ關シテハ目下中央ニ於テ考慮中ナルニ付本件モ右一般的問題ト關聯シテ攻究スルコト適當ナルヤニ思考セラルルヲ以テ右御含ニテ然ルヘク措置セラレ度シ

大臣、吉林、哈爾賓、問島へ轉電シ新京へ轉報セリ

714 昭和10年11月12日 在滿州國南大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### 在滿領事館警察官の滿州國移管中止方大使館

#### 警務部長提案について

新 京 11月12日後発  
本 省 11月12日後着

第九五三號(極秘)  
桑島東亞局長ヘ谷ヨリ  
兼任警察官移管ニ關スル十一年度豫算ノ要求並ニ給與關係ノ調節等ニ付本省關係方面ニ於ケル段々ノ御配意ニ關シテハ松隈書記官ヨリ委細承知セル處先般來關東局側特ニ東條警務部長ヨリ本件移管ニ關シ關係警察官ハ給與制度ノ相違等ヨリ相當不安ヲ懷キ居ルヤニ察セラルルカ滿洲現下ノ情

モ短期間ニ屢人心ニ不安ヲ與フル如キ處置ヲ爲スハ極力避リノ面倒アリト想像セラルルニ付從來幾多ノ糾餘曲折ヲ經テ今日ニ及ヒタル經緯ヲ無視スル次第ニハアラサルモ急轉直下的ニ生ミ出サレタル新事態即チ十二年度中ニ警察移讓ヲ爲スヘキコトノ決定ニ鑑ミ本件移管ヲ取止メ現狀ニテ善處シ度シトノ申出アリタリ

右警務部長ノ主張ハ新事態ニ微シ無理カラヌモノト思考セラルモ假令一年餘ト雖出先ニ於テ既往ニ於ケル如ク警察務ノ遂行上遺憾ノ點アリ又關係領事ノ眞ニ已ムヲ得サル警察官ノ増派若ハ派遣所ノ設置方要望等ニ付從來ノ如ク全然<sup>(2)</sup>勢ニ鑑ミ是等出先官吏ニ多少トモ不安ヲ懷カシムルカ如キハ嚴ニ戒ムヘキコトナルカ偶々今回治外法權撤廢具體案ノ一トシテ警察權ノ滿洲國移讓ハ昭和十二年度(七月頃)中ニ實行ノコトナリタルニ付テハ之カ準備ハ十一年度中ヨリ施ス暇等殆ト無キヤニ思ハレ僅々一年數箇月ノ間ニ可ナリノ面倒アリト想像セラルル身分上ノ處置ヲ二回モ引受クルコトハ事務的ニ見テ不得策ナルノミナラス政治的ニ見ルモ短期間ニ屢人心ニ不安ヲ與フル如キ處置ヲ爲スハ極力避クヘキモノト思考セラルルニ付從來幾多ノ糾餘曲折ヲ經テ今日ニ及ヒタル經緯ヲ無視スル次第ニハアラサルモ急轉直下的ニ生ミ出サレタル新事態即チ十二年度中ニ警察移讓ヲ爲スヘキコトノ決定ニ鑑ミ本件移管ヲ取止メ現狀ニテ善處シ度シトノ申出アリタリ

715 昭和10年11月19日 在滿州國南大使より  
広田外務大臣宛(電報)  
在滿領事館警察官の滿州國移管は昭和十二年の警察權移讓まで中止方決定について  
本 省 11月19日後5時発

#### 第八〇二號(至急、極秘)

貴電第九五三號ニ關シ

守屋參事官ヘ桑島ヨリ

貴官始メ係官一同種々御努力ノ段谷參事官ヨリモ親シク承リ上局ニ於テモ感謝セラレ居レリ

本件ハ年來ノ懸案ニシテ當方カ出先領事ノ切實ナル要望竝ニ立場ニ深キ關心ヲ有スル次第ハ毫モ變更セラレタル譯ニハ非サルモ今回警察權ノ移讓力昭和十二年度中ニ實行ノコトニ定マリタル新タナル事態ニ善處セントスル警務部長ノ提案ハ大体實情ニ即スル意見ト認メラルニ付關係領事ノ必要ト認ムル警察官増派、活動經費ノ支辨、人事行政等ニ關シ出來得ル限り全面的ニ好意ヲ以テ考慮セントスル警務部長ノ措置ニ信賴シ本問題ニ關スル從來ノ經緯ハアルモ

大局ヨリ見テ昭和十二年ノ警察權ノ移讓マテ現狀ノ儘トスニ付右御含ノ上御詮議アリタシ

ルコトニ同意スルコトニ決定セリ

依テ貴官ハ右ノ趣大使ニ報告セラルルト同時ニ警務部長ヲ  
通シテ關東局側ニ通告セラレ尙此ノ際關係領事ノ至當ナル  
要望ニ關シ重ネテ先方ノ注意ヲ喚起セラルルト共ニ法權撤  
廢ノ際現地現状ノ儘滿洲國ニ移讓スヘキ原則確立ノ爲ニモ  
此ノ際出來得ル限り附屬地外ノ警察配置ヲ密ニシ置クノ要

アル所以ヲ力説セラレ此ノ上トモ關東局側トノ聯絡協調ニ  
付善處セラレ度ク又關係領事ヘモ篤ト本件ノ經緯ヲ通達セ  
ラレ大局上萬遺漏ナキヲ期セラレンコトヲ望ム  
右命ニ依リ回答ス

谷參事官トモ協議済

## 2 满州国における邦人への課税問題

716 昭和10年2月7日 在(滿州国谷大使館參事官より)  
重光外務次官宛

居住營業の自由、課税および産業法規の邦人への

適用等に関する日滿間暫定協定案の作成について

公機密第一九五號

(接受日不明)

昭和十年二月七日

在 滿

大使館參事官 谷 正之

外務次官 重光 義殿

居住營業の自由、課税及産業法規ノ邦人適用等

ニ關スル日滿間暫定協定締結方ノ件

本件暫定協定締結ノ必要ナルコトニ付テハ客年七月二十八

日附大臣宛往信機密第一三三〇號、同年九月五日附往信機

密第一五五二號等屢次申進ニ依リ御承知ノ通リナル處其ノ

後滿洲國ノ事態ハ邦人ノ内地進出激増、稅制整理ノ進捗、

產業關係ノ複雜化等ニ依リ此上現在ノ如キ曖昧ナル條約關係ヲ其ノ儘トスルコトハ我カ對滿經濟的發展上ハ勿論日滿

間融洽提携上ニ於テモ甚々面白カラサル影響ヲ及ホス虞ア  
ルノ實情ニアルニ鑑ミ此際治外法權撤廢ノ第一着歩トシテ  
現狀ニ則スル暫行的措置ヲ講スル必要ヲ認メ在滿領事ノ意  
見ヲモ參酌シタル上今般當方差當リノ試案別紙ノ通り作成  
シタルニ付右御参考迄ニ送付ス  
尙本件ニ付テハ前記試案ノ骨子ニ依リ當地日本側各機關ト  
モ内協議ヲ遂ケ現地案ヲ得タル上ハ改メテ請訓致度意嚮ナ  
ルニ付本省ニ於テモ豫メ御研究置相煩度シ

(別 紙)

日本國及滿洲國間暫定協定案(昭和一〇、一一、六)

日本國及滿洲國ハ兩國間ニ通商航海ニ關スル條約ノ締結セ  
ラルルニ至ル迄ノ暫行的措置トシテ左記各條ヲ協議決定セ  
リ

第一條

兩締約國ハ大正四年日支間ニ締結セラレタル南滿洲及東部  
内蒙古ニ關スル條約第二條及第三條ノ規定ヲ滿洲國ノ全領  
域ニ適用スヘキコトヲ約

註 (一)興安省ニ於ケル商租權ニ付テハ必要ニ應シ制限ヲ